

ヒドロキシイソキサゾール液剤 タチガレン液剤	取扱メーカー： 三井アグロ、一農、ホクサン、 琉産 原体メーカー： 三井アグロ
成分： ヒドロキシイソキサゾール……………30.0%	性状： 黄褐色液体 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】……………

- タチガレン粉剤の項参照。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

〈稲箱育苗〉

- 粉剤と液剤を体系で処理するのが効果的である。
- は種前床土に粉剤を混和するか、は種直後液剤を灌注する。
- は種後2週間頃に液剤を灌注する（中苗では育苗後期の健苗確保のため特に必要である）。
- 移植1～3日前に液剤の2回目の灌注をする。
- 設置床に粉剤を表土混和することにより好結果の事例がある。
- 土壌pHはあらかじめ5前後に調整しておくこと一層有効である。
- 黒ぼく土ではやや多めに、微砂の多い土壌や砂土では少なめに使用する。
- 床土代替資材に対しても有効である。
- ダコニール剤と併用する場合は関係機関の指導を受ける。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 使用量が多すぎたり濃度が高すぎた時、場合によっては初期生育が一時抑制されることがあるので、濃度或使用量を誤らないように注意する。
- 稲に使用する場合は次の事項に注意する。
 - ムレ苗防止は吸水と蒸散の不均衡によるムレ苗の発生する地域で使用する。
 - 育苗中の苗立枯病のまん延防止には発芽期以降に追加灌注する。
- さやえんどうの根腐病防除には、予防的には種

後1週間以内に所定希釈液を3ℓ/m²灌注し、さらに1～2カ月後にかけて1～2回株元灌注処理する（効果）。

●キャベツに使用する場合、使用量が多すぎたり濃度が高すぎると薬害（生育抑制）を生じやすいので、所定の使用量、濃度を必ず守る。

●オクラに使用する場合、乾燥した土壌に灌注すると薬害（生育抑制）を生じるおそれがあるので、は種前に十分に灌水する。

●カーネーションの立枯病防除には、定植時に所定希釈液を3ℓ/m²の割合でジョロなどで均一に土壌灌注する。活着後、発生状況に応じて適宜灌注処理する（効果）。

●アイリスの白絹病防除には、定植時に所定の希釈液を3ℓ/m²の割合でジョロなどで均一に土壌灌注し、その後20～30日間隔で1～2回灌注処理する（効果）。

●適用作物（稲、さやえんどう、きゅうり、すいかなど）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】……………

●空中散布及び無人ヘリコプター散布の際は、共通注意事項の2. 空中散布及び無人航空機（無人ヘリコプター等）による散布・滴下に関する注意事項を参照。

●眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。

●皮膚に対して刺激性があるので、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して、皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落とす。

●カブレやすい体質の人は取扱いに十分注意する。

●共通注意事項6. 街路・公園・堤とう等で使用

する場合の注意事項を参照。

【適用と使用法】

作物名	適用病害名 又は使用目的	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ヒドロキシソキサゾール を含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (フザリウム菌) 苗立枯病 (ピシウム菌) 根の生育促進, 移植時の発根及 び活着促進, ムレ苗防止	500～ 1000 倍	育苗箱 1 箱* 当り 500ml	は種時 及び 発芽後	2 回 以内	土壌灌注	3 回以内 (移植前の土壌 混和は 1 回以 内, 移植前の 土壌灌注は 2 回以内)
	ごま葉枯病	500 倍		は種時	1 回		
	苗立枯病 (フザリウム菌) 苗立枯病 (ピシウム菌) 根の生育促進, 移植時の発根及 び活着促進, ムレ苗防止	1000 倍	育苗箱 1 箱* 当り 1 ℓ	は種時 及び 発芽後	2 回 以内		
	ごま葉枯病			は種時	1 回		
稲 (折衷苗代)	苗立枯病 (フザリウム菌)	500 倍	1 ℓ /m ²	は種直後 及び 発芽後	2 回 以内		3 回以内
稲 (畑苗代)	苗立枯病 (ピシウム菌) 根の生育促進, 移植時の発根及 び活着促進	1000 倍	3 ℓ /m ²	は種直後	1 回		
				出芽時～ 育苗期	3 回 以内		
キャベツ	ピシウム腐敗病		セル成型育苗ト レイ 1 箱又はペー パーポット 1 冊 ** 当り 0.5 ℓ				
レタス	バーティシリウム 萎凋病		250ml/株	定植時		株元灌注	1 回
すいか	苗立枯病	500～ 1000 倍	3 ℓ /m ²	は種直後	1 回	苗床灌注	2 回以内 (育苗土壌への 混和は 1 回以 内, 苗床への灌 注は 1 回以内)
きゅうり	苗立枯病 (フザリウム菌) 苗立枯病 (ピシウム菌)				3 回 以内	土壌灌注	3 回以内

* 育苗箱は 30×60×3 cm, 使用土壌約 5 ℓ

** セル成型育苗トレイ又はペーパーポット 1 冊は 30×60cm, 使用土壌約 3.0～4.0 ℓ

作物名	適用病害名 又は使用目的	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ヒドロキシノキサゾール を含む農薬の総使用回数
ほうれんそう	立枯病	500～ 1000倍	3 ℓ /m ²	は種時	1 回	土壌灌注	1 回
		1500～ 3000倍	9 ℓ /m ²			全面散布 後土壌混和	
		50～ 100倍	300ml/m ²	は種前		全面 土壌灌注	
メ ロ ン	苗立枯病 (ビシウム菌)	500倍	3 ℓ /m ²	は種時	2 回 以内	植穴又は 株元灌注	2 回以内
オ ク ラ			50～200ml/ 株	は種時～ 発芽初期			
てん さい	苗立枯病	500～ 1000倍	ペーパーポット 1冊当り1 ℓ	は種時～ 生育初期 但し、 120 日前 まで	3 回 以内	灌注	5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内, 育苗土 壌への混和は 1 回以内, 灌注は 3 回以内)
			3 ℓ /m ²				
み ず な	立枯病	500 倍		は種時	1 回	土壌灌注	1 回
み ぶ な		1000 倍				散布	
み つ ば	根腐病	2000 倍	100～ 300 ℓ	14 日前まで 但し、伏せ込 み栽培は伏せ 込み前まで	1 回		
さやいんげん	白絹病	500 倍	1 ℓ /m ²	14 日前まで	3 回 以内	土壌灌注	3 回以内
さやえんどう	根腐病	500～ 1000 倍	3 ℓ /m ²	は種後及び 生育期 但し、は種 後 1～2 カ 月後まで		は種穴又は 株元に 土壌灌注	
実えんどう	立枯病	500 倍	200 ml / 株	は種後及び 生育期 但し、30 日前まで			
未成熟そらまめ							
い ち ご	苗の発根促進, 活着促進	1000 倍	—	挿し芽 採取時	1 回	30 分間 挿し芽浸 漬	2 回以内 (挿し芽採取時 の浸漬処理は 1 回以内, 挿し芽 時の土壌灌注は 1 回以内)
			1.5 ℓ /育苗 培養土 5 ℓ	挿し芽時		土壌灌注	
た ば こ	舞病		100 ml / 株	移植時 及び 大土寄時	2 回 以内	株元灌注	2 回以内
カーネーション	立枯病	500 倍	3 ℓ /m ²	定植時及び 活直後	3 回 以内	土壌灌注	3 回以内
アイリス	白絹病	1000～ 2000 倍		定植時及び 生育期	6 回 以内		6 回以内
き く	発根促進	1000 倍	5～10 ℓ /m ²	挿し芽 直後	1 回	土壌灌注	1 回
林 木 (苗木)	立枯病	500～	3 ℓ /m ²	は種覆土 直後		苗床 全面灌注	
西 洋 芝 (ベントグラス)	赤焼病	1000 倍	2 ℓ /m ²	発病初期	4 回 以内	散布	6 回以内